

2005年農業産出額 8兆8千億円

『安心・安全』『付加価値化』が統計に反映か？

農水省が11月1日発表した2005年の国内農業産出額(市町村別推計値)によると、全国の農業産出額の合計は8兆8,058億円(補助金込みの金額)で、前年比1・2%減少した。農業産出額は昭和59年(1984年)をピークに、この21年間で25%も減少している。農産物生産者価格指数は過去10年間で、約2割低下しており、近年の農業総産出額の減少は、農産物価格の連続的な下落が大きく影響している。その中でエコ米・安心米、北のクリーン農産物、特別栽培農産物などの『安心・安全』を謳った物や、黒毛和牛・黒豚・黒酢・黒麹を使った芋焼酎など地域ブランド『付加価値化、ブランド化』に成功している市町村の健闘が統計に反映している。

肉牛の国産指向と市町村合併で順位変動

都道府県別では、肉用牛などの価格上昇に伴い畜産業が盛んな鹿児島が、前年比0.6%増の4,168億円となり、前年の4位から順位を上げ初めて2位になった。1位は北海道で、2.5%減の1兆663億円、統計を取り始めた1960年以降、46年連続1位である。水稲・野菜栽培の盛んな茨城県、千葉県は、昨年米・野菜の価格低下により1.5%減の4,161億円で、それぞれ順位を3位、4位に下げた。

農業産出額ベスト5都道府県(単位:億円)

順位	都道府県	農業産出額	主な品目(金額)									
1位	北海道	10,663	生乳	2,791	米	1,175	小麦	753	てんさい	700	馬鈴薯	699
2位	鹿児島県	4,168	肉牛	778	豚	755	ポイラー	424	米	253	茶	217
3位	茨城県	4,162	米	938	豚	398	鶏卵	338	メロン	175	生乳	157
4位	千葉県	4,161	米	765	豚	342	鶏卵	283	生乳	256	かんしょ	172
5位	愛知県	3,275	米	342	菊	275	鶏卵	233	豚	211	生乳	178

農業産出額上位10市町村(億円)

順位	市町村	農業産出額
1位	愛知県田原市	779
2位	新潟県新潟市	695
3位	茨城県鉾田市	533
4位	静岡県浜松市	524
5位	愛知県豊橋市	495
6位	北海道別海町	449
7位	千葉県旭町	412
8位	宮城県都城市	354
9位	鹿児島県曾於市	345
10位	福岡県久留米市	339

市町村別は、合併の影響により大きく順位が変わった。前年3位と4位が合併した愛知県田原市が779億円で首位に立ったほか、新潟市が2位、茨城県鉾田市が3位で、合併が進んだ市町村が上位を占めた。昭和42年以降前年まで首位の愛知県豊橋市は、495億円(3.7%減)で5位となった。宮城県都城市が前年5位から8位にダウン。合併で誕生した鹿児島県曾於市が9位に、合併で市域が拡大した福岡県久留米市が10位にそれぞれ入った。

主な農産物別では、米は『魚沼・岩船・佐渡のコシヒカリ』で有名な新潟県が、26年連続トップで産出額は1,903億円。市町村では、新潟市で395億円、米の割合が多いのは秋田県大潟村。野菜は千葉県が2年ぶりに首位に返り咲き、産出額は1,653億円だった。最も多い市町村は、茨城県鉾田町で275億円、メロン、トマトの産地である。割合が最も高い都道府県は東京都で56.8%、主な品目は小松菜、ハウレン草などとなっている。また野菜の割合が最も高い市町村は、高原レタスの産地として有名な長野県川上村で98.5%となっている。

米価低迷で、米作集中県の農業産出額の下降続く

農業産出額の減少は、農産物価格の連続的な下落が大きく影響している。その中で米は、昭和59年をピークに48.5%も下落している。東北6県の農業産出額合計は、ここ20年間で33%も減少しているが、青森県だけは、果樹、野菜、米、畜産がほぼバランスを保っている為14位から8位へと順位を上げている。農業生産資材価格指数(1)を見ると、昭和48年の第一次石油ショック以降、上昇傾向にあり平成12

(次ページ下段へ続く)



播州ケミカル感謝祭 開催

ダイヤアミノでお馴染みの播州ケミカル(株) (社長：武富正幸氏) が10月29日に工場の構内を開放して

感謝祭を開催した。同社は地域住民との共生を大切にし懇親を深めたいとの事から感謝祭を始め、今年で5回目の開催となり地域では早くも恒例となっている。

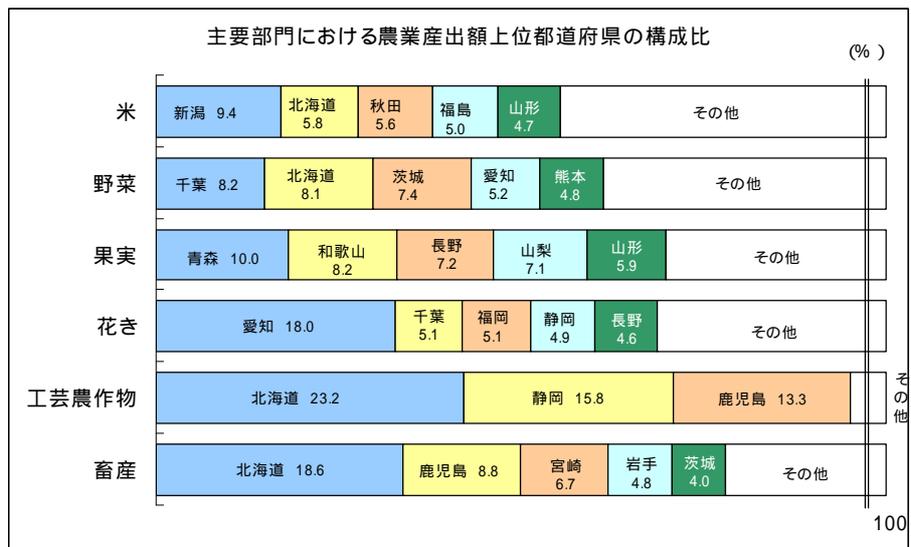
当日は天気にも恵まれ、9時の開門と同時に沢山の来場者で会場は埋まり、無料で振舞われる豚汁や綿菓子に子供達の行列が出来た。また園芸品や同社商品で栽培された農産物の売店も盛況で、農産物(みかん・ぶどう・レンコン・キーウイ・りんご等)は発売開始から1時間余りで完売するほどだった。



農産物の購入者の多くは毎年訪れるリピーターで、昨年食べた農産物の美味しさを経験し「また食べたい」という事で来店しているそうだ。同社では、来年は出店品目・量を増やして住民の皆さんのご期待に添える様に頑張りたいとしている。(大阪支店 加藤)

(前ページ下段より)

年以降飼料や有機質肥料、化成肥料など近年資材価格の上昇が目立つ。しかし農産物生産者価格は下降気味にあり農業所得は平成9年以降、年々減少している。水稻など農業の交易条件指数(2)は年々悪化が続いており米だけに依存している県は、農業所得率の低下が目立ち相対的に順位を下げている。米の産出額が割合として多い県は、東北



の新潟、秋田と北陸3県の富山、石川、福井、そして滋賀などである。園芸(野菜、果樹、花卉)や畜産に力を入れている県は、農産物の付加価値化やブランド化を目指し高順位を保っている。

(1) 農業生産資材価格指数: 農家が購入する農業生産に必要な資材の小売価格を総合した指数で、類似の商品群ごとにまとめて作成している。

(2) 農業の交易条件指数: (農産物価格指数 / 農業生産資材価格指数 × 100)

* 農産物価指数: 農産物の価格水準を把握するため、農家が販売する農産物の価格(農家受取価格)を農産物個々に調べ総合した指数である。基準年を100として指数を出す。

* 農業生産指数: 農業における生産量の動きをある年を基準として比較した指数である。基準時は5年ごとに改定されており、最近では平成12年度(会計年度)を基準時として比較している。

日本列島を紅葉前線が南下し、街の街路樹も序々に色づいてきました。北の大地から初雪のニュースが聞こえてくると、お野菜たっぷりの鍋を囲みたくくなりますね。さて、次号では農業に熱い思いを寄せる若い女性を特集します。どうぞお楽しみに。

編集局長：吉野友隆 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：journal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp